たがさぽからのお知らせ

NPO・市民活動団体向け　運営力アップ講座

「届く、届ける情報発信 SNS活用講座」のお知らせ

たがさぽではNPO・市民活動団体の方に向けて役立つ講座を開催しています。

団体のことをもっと知ってもらいたい、活動に参加する人を増やしたいなど、今年度は運営課題のひとつでもある情報発信をテーマに講座を開催します。SNSを活用した情報発信について知りたい団体の方、ぜひご参加ください。申込方法など、詳細はホームページをご覧ください。

期間	2023年1月21日(土)14:00～16:30(予定)
場所	多賀城市市民活動サポートセンター会議室
講師	笹崎 久美子さん(ワッツ・ビジョン)

※昨年度開催した講座の様子／講師とオンラインでつなぎ実施しました。

ヒント from たがさぽ Press

たがさぽのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します！

HINT! 01 たがさぽのきっず雑貨市①リポート 共生社会をめざす 耳の聴こえないパン職人の島おこしのおはなし
2022年8月16日(火)掲載

HINT! 02 ビーチクリーンで海と向き合おう！
2021年7月1日(木)掲載

HINT! 03 寄付は自分の想いを託すこと
2020年12月3日(木)掲載

たがさぽホームページ
多賀城市市民活動サポートセンター

たがさぽPress
たがさぽスタッフによるブログ　定期的に更新中

@tagasapo

YouTube たがさぽチャンネル

tag アンケート
誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします！

以下のような情報もお待ちしています！
●自分たちの団体を取材してほしい　●こんな話題を取り上げてほしい
●ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている

What's? tag.
「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、みんながタッグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。

たがさぽちゃん
たがさぽとは？
多賀城市市民活動サポートセンター(通称たがさぽ)は、「もっとまちを良くしたい！」「地域にあるいろんな困りごとを解決したい！」という想いをもって、地域でさまざまな活動に取り組む市民のみなさんを応援する「地域づくり」の拠点施設です。

発行：多賀城市市民活動サポートセンター
〒985-0873 宮城県多賀城市中央2丁目25-3
(多賀城市文化センター北隣・上下水道部向かい)
TEL：022-368-7745 ／ FAX：022-309-3706
発行：2022年12月
編集：NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター

tag.

多賀城発で多賀城着。
ヒト・コト・モノを届けます。

「tag(たっぐ)」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援するフリーペーパーです。

TAKE FREE
2022.12
VOL. 101

寄付は、想い描く未来へのプレゼント

▲【左】たがさぽ1階に設置しているフードボックス。【中央上】NPO法人いのちのパンの倉庫。たくさんの寄付が集まっています。【中央下】【右】使用済みの切手や書き損じのハガキも大切に活用されています。

毎年12月に行われている寄付月間は、多くの人が寄付について考え、行動することを目指す啓発キャンペーンです。ホームページでは、団体を検索しての募金や、寄付付き商品の購入ができるほか、SNSの投稿に「いいね」をするだけで寄付につながるものなど、気軽に参加できるものもたくさん紹介されています。寄付とは、「教育格差がない未来」「戦争がない未来」といった未来を描き活動しているさまざまな取り組みに、自分の想いや願いを託すことでもあります。家庭にある使わないもの、捨ててしまうようなものを生かす寄付のかたちもあります。想い描く未来へ向けて、この機会にアクションを起こしてみませんか？

12 Giving December 寄付月間2022

寄付月間2022 -Giving December-
ホームページはこちら

たがさぽでも寄付ボックスを設置しています！

期間	2023年1月31日(火)まで
場所	たがさぽ1階エントランス

NPO法人いのちのパン

品質の問題がないにもかかわらず何らかの理由で廃棄される食品を、貧困家庭やコロナ禍による失職で減収を余儀なくされた世帯など、必要としている方々へ渡す活動を行っています。

今回のアクション
賞味期限が3ヵ月以上ある食べ物全般、生活用品などの寄付を受け付けています。

団体ホームページ

認定NPO法人シャプラニール

不要品を国際協力に生かす「ステナイ生活」と名付けた物品寄付プログラムを実施しています。寄せられた物品は換金され、南アジアの子どもの労働や教育、日本在住の外国人の孤立など、これまで支援の手が届いていなかった「取り残された問題」の解決へ向けた取り組みに生かされます。

今回のアクション
未使用・書き損じ郵便はがき、未使用・使用済み切手、未使用テレフォンカード、CD・DVD、本、ゲームの寄付を受け付けています。

団体ホームページ

みんなで考える多賀城のこと

広がれ！共生社会の輪
～ともに生き、ともに働ける社会を目指して～

**障がいのある人とない人が、お互いを認め合い安心して暮らせる社会を実現するために必要なこととは…？
パンとクッキーのお店「コッペ」で働くみなさんの姿を通して、そのヒントを探ります。**

障がい者が一緒に働くパンとクッキーのお店

仙台市にあるNPO法人麦の会が運営しているパンとクッキーのお店「コッペ」は、障がいのある人もない人も一緒に働ける場所として、1988年に誕生しました。代表の飯嶋茂さんがイメージしたのは「障がい者が働くための施設ではなく、たまたま障がいのある人が一緒に働いている普通のパン屋さん」。職員や入所者といった垣根を取り払い、同じ職場でともに働く仲間という関係性を大切にしています。「障がいがあると、仕事を覚えるのに時間がかかるかもしれません。でも、時間をかけて繰り返すことでできるようになっていきます。それぞれが得意なことをやり、不得意なことは他の人が補う。役割を分担して、力を合わせながら商品を作っています」と飯嶋さんは話してくれました。年齢や性別、障がいの有無など、それぞれの違いを受け入れ、すべての人が支え合う共生社会の実現を目指して、コッペのみなさんは活動しています。

▲協力しあって働いているコッペのみなさん。飯嶋さんは、その姿にたくさんの元気をもらっているそうです。

地域に愛されるコッペの“仲間”と“味”

安心・安全でおいしいものを提供するために、国産100%の小麦粉をはじめとする材料にもこだわり、心を込めてひとつひとつ手作りしていることもコッペの特徴です。「昔、よく買っていたので、今は県外にいる子どもにこの懐かしい味を送ってあげたい」と言って買い求める方もいるそうです。長きにわたって続けてきたことで、県内外の幅広い世代に親しまれていると同時に、店舗や配達、イベント出展で地域の方々と触れ合うことで、障がい当事者の姿が当たり前の風景として根付いています。飯嶋さんは「コッペを必要としてくれる一緒に働く仲間の存在と、商品をおいしいと言って喜んでくれるお客さんの存在のおかげで、続けることができています」と目を細めます。共生社会への願いが込められたコッペのパンとクッキーは、今日も誰かのお腹と心を幸せで満たしています。

▲オンラインショップでも購入できるクッキー。県内外にたくさんのファンがいます。

コッペ
〒983-0834
宮城県仙台市宮城野区
松岡町17-1
TEL/FAX:022-299-1279
HP

子どもたちも考えてみました

毎年12月に開催している「たがさぽのクリスマス雑貨市」に関連して、今年度実施している小学生向けの連続講座「たがさぽの雑貨市きっず講座」。10月9日に開催した3回目では「クッキーと障害とお金のはなし」と題して、飯嶋さんからコッペの成り立ちや現状の話、賃金を上げることが障がい者の自立につながるという話などがありました。お土産としてクッキーが配られ、参加した子どもたちから「おいしい」「お店に買いに行きたい」などの声が上がったほか、「コッペのボランティアをやってみたい」「機会があれば障がいのある人と向き合ってみたい」といった感想も出ていました。

「多くの人に知って食べてもらいたい」と話す飯嶋さん。売上がコッペで働くみなさんの給料や団体の活動資金になります。

障害者週間

毎年12月3日～9日は「障害者週間」です。障がい者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として、国や地方公共団体、関係団体などがさまざまな啓発活動を行います。

コッペも8日に出展
働く障害者ふれあいフェスティバル
日時：12月7日（水）～9日（金）10：30～14：00
場所：県庁1階県民ロビー

市民活動 はじまり の はじまり

ボランティアで新しい自分を発見！

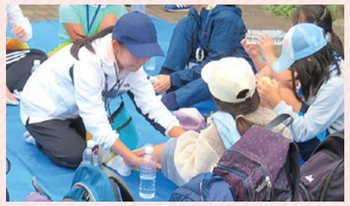
**NPO法人みやぎみなとまちづくり市民会議が3年ぶりに実施した「みなとのまち25km徒歩の旅」。
長い道のりの旅を笑顔で支えた学生ボランティアスタッフに、活動を通して学んだことをうかがいました。**

小学生のチャレンジを支える

「まちづくりの基本は、まず、ひとづくりから」の理念のもと、多賀城市を含む二市三町の小学4～6年生を対象に行われる徒歩の旅は、普段できない体験を通して生きる力を育むことを目的に企画されています。コロナ禍前は4泊5日で100kmを歩いていましたが、今年は20kmを1日で歩き、それぞれが事前に歩いた5kmとあわせて「みなとのまち25km徒歩の旅（みな25（トゴー））」として10月9日に行われました。小学生のチャレンジを支えているのは高校生・大学生のボランティアのみなさんです。

当日の朝、集合場所の多賀城駅に集まった10人の小学生は、これから始まる徒歩の旅への不安と緊張から硬い表情を浮かべていましたが、学生ボランティアのあいさつや声がけで、次第に笑顔が見られるようになりました。七ヶ浜から塩釜へと歩く中で、苦しそうな姿を見せる小学生にボランティアが寄りそい、前向きになれるように励ましの声をかけ続け、誰ひとりあきらめることなく歩き抜くことができました。ゴール後は、ボランティアが小学生ひとりひとりの旅の様子を報告し、保護者からは感動の拍手が送られました。

▲「歩き切ると自信につながるね！」学生スタッフはいつも笑顔を忘れません。


▲休憩所では小学生のケアをしながらコミュニケーションをとっています。

ボランティアで得られるもの

自身も友達に誘われて小学5・6年の時に参加した経験がある高校生のナミさんは「100km歩くのは大変だと思ったが、歩き通すことで自分に自信が持てた。今度は自分が小学生を支えたい」とボランティアに参加しました。ほかにも、団体ホームページの「子どもの成長を促す」という言葉に共感した、新しい体験がしたいなど、17人の学生がボランティアに参加した動機はさまざまです。

本番までの5ヵ月間、実際のコースを歩くなど、毎週研修を重ねてきました。小学生が安全に歩くために必要なことを何度も話し合う中で、学生たちの話す力や聞く力がつくとともに、ボランティア同士の絆も深まっていきました。活動に参加した当初は、自分にできるだろうかと不安に感じていたという大学生のまっつんさんは「内向的な性格も仲間が否定せず尊重してくれ、大勢の前に立って話すことができるようになった」と話します。大学生のみってぃーさんは「社会人スタッフやほかの学生の意見を聞くことで視野が広がった」と言います。研修を経て人との関わり方を学び、自分自身の成長も実感したようです。

このように、ボランティア活動を通して、苦手なことが克服できたり、社会や地域で役立つ学びもあったようです。何かやりたいと思っている人に向けてみってぃーさんは「迷わずやってみて。まずは行動を起こす姿勢と気持ちが大事」とエールを送ります。みなさんもボランティア活動へ一歩踏み出してみませんか。

▲小学生を支え続けた学生スタッフも一緒にゴール！おつかれさまでした。

NPO法人みやぎみなとまちづくり市民会議
学生ボランティアは毎年4月～5月に募集しています。
▼こちらから活動の様子がわかります。
HP　Instagram　Facebook

**たがさぽには
ボランティア情報があります！**
ボランティアを必要としている団体の情報をブログや館内に掲示してあります。やってみたいと思っている方、ぜひチェックしてみてください。
ボランティア情報掲載ブログ